

わたしは、わたしらしく

荒川区立第四峡田小学校 三年 田村 優里

やなぎ田先生へ

はじめまして。わたしは、小学三年生の女の子です。このお手紙で、わたしの心にのこっている絵本を、やなぎ田先生につたえたいと思いました。

マックス・ルケードさんが書いた、「たいせつなきみ」と言う絵本です。この本は、わたしが一年生の時にお母さんが買ってくれて、読み聞かせてくれました。わたしは、学校に通いはじめましたが、体育がとても苦手でした。体育がとくいな友だちがうらやましかったです。何回か、お母さんに内しよでズル休みもしました。でも、お母さんは、知っていました。おこらないで、「どうして休んだの」と聞いてくれたので、わたしは「友だちみたいに上手にできないから」と話しました。次の日、お母さんがわたしのために、この絵本を買ってきてくれました。木でできた小人たちのお話です。絵の具できれいにぬられた小人、なんでもできる小人は星のシールを体にはってもらいます。だけど絵の具がはがれた小人や、木がボロボロの小人、なにも上手にできない小人は、灰色のだめじるしシールをはられます。体中、だめじるしをはられた主人公は、パンチネロと言います。パンチネロは、星のシールをはっている小人がうらやましくて、しょうがありません。でも、パンチネロは、なにをやっても上手にできないので、だめじるしでいいです。「どうせぼくは、だめな小人だから」とつぶやきました。わたしも同じでした。「どうせわたしは、体育が苦手だから」と思っ

ていました。かけっこは、走るのがおそいし、つかれるしすきじゃない。てつぼうは、前まわりしかできないからすきじゃない。おにごっこは、おにばかりでつまらない。やっぱり苦手です。でも、続きを読んでもらって、ちがうんだって知りました。パンチネロは、作ってくれた、ちようこく家のエリに会いに行きました。エリは、だめじるしを見て「気にすることはない。みんな、お前と同じ小人じゃないか」と言いました。「問題は、わたしがパンチネロをどう思っているかだよ。そしてわたしは、お前のことをとても大切だと思っている。」とつたえました。パンチネロは、とてもうれしくなって、どのシールもかんけないんだと思います。わたしもお母さんに、「ゆう里は、ゆう里だよ。お父さんとお母さんの大切な子だよ。ほかの友だちとちがくていいんだからね。体育は苦手でも、ゆう里は本と歌が大すきじゃないの。世かいで一人しか、田村ゆう里はいないんだから。」と言ってくれました。三年生になった今は、体育もすきになりました。苦手でも、がんばっていききたいと思います。

やなぎ田先生も苦手な事ってありますか？

「たいせつなきみ」は、わたしの心にある、たいせつな絵本です。

やなぎ田先生にも、おばあちゃんに教えてもらった、すてきな言葉を教えてあげます。「本は、大事な友だちであり、先生でもある」。とてもいい言葉ですよね。

やなぎ田先生も、ぜひこの本を読んでみて下さい。とても、やさしい気持ちになるお話です。わたしは、わたしらしく、生きて行こうと思います。